



(写真) Shutterstock “2025年に大統領選が予定されている米州の国と、その影響について考察”

2025年 米州の大統領選

2025年大統領選 超重要な選挙なし

株式会社ベネインベストメント
松浦 健太郎

最初に2025年に大統領選を予定している国を確認したい。

2 025年1月10日 ベネズエラで大統領の
新任期がスタートする。

2025年1月に最も起こり得るシナリオは、マドゥロ大統領・ゴンサレス候補が共に大統領就任を宣言するシナリオだろう。

「ベネズエラ大統領は誰か」は、各国が判断することであり、その判断は各国大統領・首相に依存する。本稿では、2025年に米州地域で行われる予定の大統領選を確認し、ベネズエラを取り巻く国際地図がどのように変化するのかについて考察したい。

- ・エクアドル：2025年2月9日予定
(当選者は2025年5月に大統領就任)
- ・ボリビア：2025年8月17日予定
(当選者は2025年11月に大統領就任)
- ・チリ：2025年11月16日予定
(当選者は2026年3月に大統領就任)

2025年は、米国・メキシコ・ブラジル・アルゼンチン・コロンビアなど、ベネズエラを取り巻く国際情勢に大きな影響を与える国の大統領選は予定されていない。

エクアドルにおいては、マドゥロ大統領の盟友と言われるラファエル・コレア元大統領の側近が当選するようなことがあれば、同国の対ベネズエラ方針が変化するだろう。

実際にコレア元大統領と関係が近いルイサ・ゴンサレス氏が大統領選に出馬する見通しとなっており、直近の世論調査では一定の支持が確認されている。

ただし、エクアドルとベネズエラの経済関係は希薄で、ベネズエラに与える経済的な影響自体はそこまで大きくないだろう。

ボリビアのルイス・アルセ政権(左派)は、マドゥロ政権と友好的な関係を維持する米州では数少ない国である。

2025年の大統領選で左派政権が交代し、マドゥロ政権との関係が悪化することは考えられる。

ボリビアはマドゥロ政権の数少ない友好国であり、同国での右派政権発足は、マドゥロ政権の孤立を進めるだろうが、マドゥロ政権の存続に強く影響するほど大きな問題にはならないと想像している。

チリは、政治的に安定しており、誰が大統領になったとしてもマドゥロ政権との関係が良くなることはないだろう。

また、チリで大統領が交代するのは2026年3月である。2026年3月の時点では、ベネズエラの大統領認識を巡る国際社会の混乱は一定の区切りが付いていると思われ、ベネズエラに大きな影響は与えないと想像している。

表：米州各国の大統領就任スケジュール

国名	任期	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	【参考】選挙日
米国	4年		1月			●	1月			2024年11月5日
アルゼンチン	4年				12月				12月	
ウルグアイ	5年	3月				●	3月			2024年11月24日
エクアドル	4年		5月		11月		5月			2025年2月9日
コロンビア	4年			8月				8月		
チリ	4年			3月			●	3月		2025年11月16日
ニカラグア	5年			1月					1月	
パナマ	5年					7月				2024年5月5日
パラグアイ	5年				8月					
ブラジル	4年				1月				1月	
ベネズエラ	6年					●	1月			2024年7月28日
ペルー	5年		7月	12月				7月		
ボリビア	5年	11月					11月			2025年8月17日
メキシコ	6年					10月				2024年6月2日
エルサルバドル	5年					6月				2024年2月4日
ドミニカ共和国	4年	8月				8月				2024年5月19日
米州機構	5年	5月					5月			

25年 OAS の事務局長選が最も重要か

また、国ではないが、米州地域の国際組織「米州機構（OAS）」の事務局長が2025年に交代する。

筆者は、2025年に予定されている米州の選挙の中で最も重要な選挙は、OAS の事務局長選だと考えている。

OAS は、米州全体の認識を国際社会にアピールするような組織として機能しており、OAS がどのように振る舞うか（米州各国の政治に対して介入する立場をとるか、あるいは自国主権の原則から中立的な立場をとるか）は非常に重要である。

現在 OAS の事務局長を務めるアルマグロ事務局長は、OAS による政治介入を支持する人物で、米国政府の方針に沿った采配を振っているとの理由で、左派政権との対立を生んでいる。

OAS の事務局長が交代するのは2025年5月。選挙は、前回と同じであれば、2025年3月に行われることになるだろう。

前回（20年3月）の投票では、OAS 加盟34カ国（うちキューバは投票権が無いので、実質33カ国）中23カ国の支持（18カ国以上の支持が就任要件）を受けてアルマグロ事務局長の再任が決まった（[「ベネズエラ・トゥデイ No.422」](#)）。

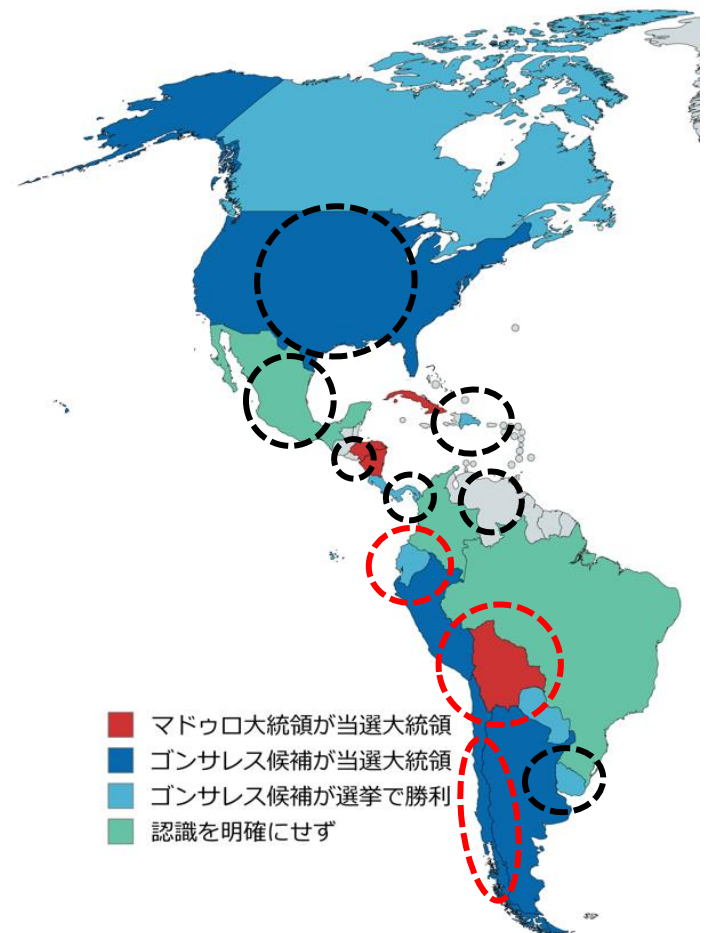
なお、2023年にアルマグロ事務局長は、OAS 職員と恋仲になり、恋人の役職・給料引き上げ、2人での出張など、OAS 事務局長の権限を不適切に行使したとの理由で、倫理規定違反の訴えを受けた。

このような事情から2025年の事務局長選は再選を狙わない可能性はある。

ただし、米国のトランプ政権は米州各国に対して、米国が支持する人物に投票するよう強く働きかけられると思われ、アルマグロ事務局長でなくても米国の利害を代表する人物が事務局長に就任すると想像している。

25年の政権交代 対ベネ方針に変化起きず

以下は、2024年7月28日にベネズエラで行われた大統領選の結果を各国がどのように認識しているのかを示した図である。



赤い○で囲まれた国が2025年に大統領選を予定している国。黒い○で囲まれた国が2024年に大統領選を行った国である。

2024年に大統領選を行った米州の主な国は、米国・ウルグアイ・パナマ・ベネズエラ・メキシコ・エルサルバドル・ドミニカ共和国。

エルサルバドルは、ナジブ・ブケレ大統領が再選。ドミニカ共和国は、ルイス・アビナデル大統領が再選。それ以外の国は大統領が交代している（ベネズエラ除く）。

また、米国とウルグアイは24年に大統領選が実施されたが、政権が交代するのは2025年に入ってから。

これらの国の中で、政権交代により、対ベネズエラ関係に変化が見られた国、あるいは変化が起きそうな国はない。

もちろん米国についてはトランプ政権の発足（マルコ・ルビオ議員の国務長官就任）により、バイデン政権よりもベネズエラに対して、強硬な姿勢を執ることが予想されるが、現在の国際情勢を加味し、現状を維持するとの観測もあり、方向性が見えない。

いずれにせよ、「マドゥロ政権の当選を認めない」という基本方針は、バイデン政権でもトランプ政権でも変化することはないだろう。

以上